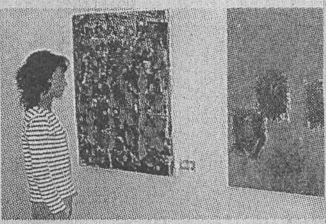
京都新聞　平成17年4月8日（金曜日）
第３種郵便物認可　京

ひろば

春を感じる絵画作品

府立中丹養護学校（福知山市）卒業生による絵画作品の展示会＝写真＝が、同市駅前町のギャラリー喫茶「ファーストステージ」で開かれている。16日まで。

展示しているのは、現在、共同作業所などで働く卒業生４人のグループ。同校の西村美紀教諭が主催するアトリエ「草の家」（綾部市七百石町）で、



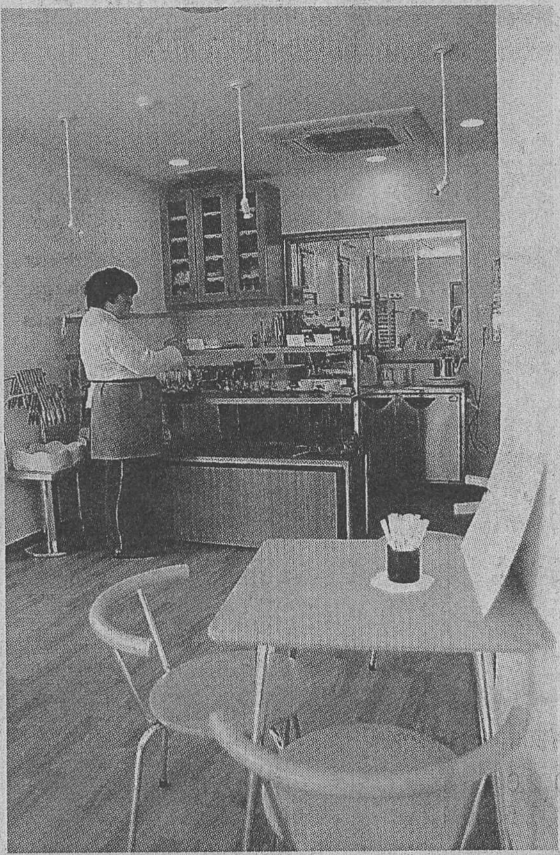
住民と利用者 自然に交流を

開かれた施設目指し

舞鶴「みずなぎ丸田学園」

きょうオープン

カフェコーナー設置



「市民との交流拠点に」と設けられたカフェコーナー（舞鶴市丸田・みずなぎ丸田学園）

舞鶴市の社会福祉法人「みずなぎ学園」が、同市丸田に新たに知的障害者通所授産施設「みずなぎ丸田学園」（植田泰正施設長）を開設した。「地域の人たちとの交流拠点に」とカフェコーナーを設けたのが特徴で、八日の完成式の後、カフェの営業を始める。

同法人が市内の鹿原、野村寺で運営する三つの授産施設（定員計百九人）が、ともに満員状態にあるため、市と日本財団の補助を受けて新設した。総事業費は約一億五千四百万円。定員は二十人。

施設には、陶芸や縫製品などを作る作業場のほか、パン製造場の隣に他施設にはないカフェコーナーを設けた。約十種類の焼きたてパンと一緒に、有料でコーヒーや紅茶、ジュースなどを出す。

同学園では利用者十六人が四日から通い始め、カフェの開店に向けて業者からコーヒーの入れ方の指導を受けたり、接客を練習。「パンの味には自信があるので、たくさんの人に来てほしい」と張り切っている。

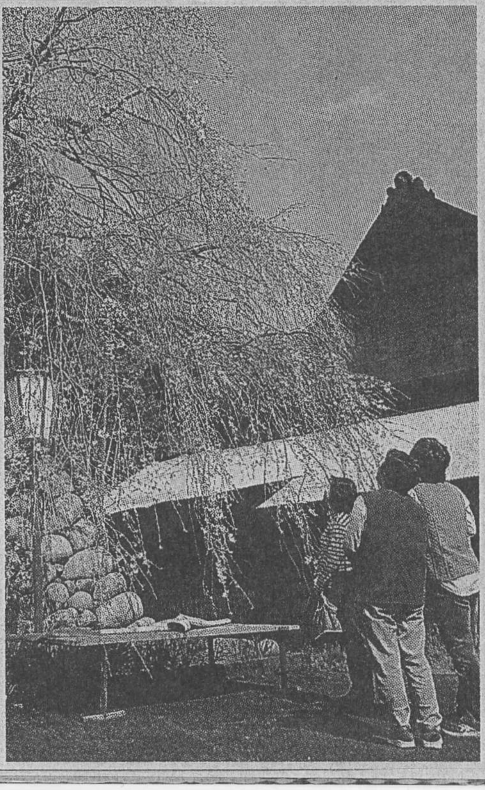
植田施設長は「地域に開かれた施設として、利用者と住民が自然に交流できる場にしたい」という。カフェの営業時間は午前十時―午後六時の予定で、当面は土日も開店する。

守る」との決意を新たにした。

同会議は、児童を狙う犯罪から子どもたちを地域ぐるみで守ろう、とＰＴＡメンバーや地元住民ら百四十人で組織した。

お待たせ開花宣言

舞鶴海洋気象台　昨年より11日遅く



連日の陽気で、一気に三分咲きとなった瑠璃寺のシダレザクラ（舞鶴市吉田）

舞鶴海洋気象台は七日、桜の開花宣言をした。平年と比べて三日遅く、開花の早かった昨年より十一日遅かった。

開花宣言の基準は、舞鶴市下福井にある同気象台構内の標準木（ソメイヨシノ）が「五、六輪以上咲くこと」で、七日午前九時半ごろ、十輪ほどの花が咲いているのを職員が確認した。

舞鶴市内は三月下旬から寒い日が続いた影響で桜の開花が遅れていたが、五日から一転、最高気温が二〇度を上回る陽気となり、一気に花開いたとみられる。

七日も好天に恵まれ、最高気温は二三・九度（平年一六・三度）まで上昇。名所として知られる同市吉田の瑠璃寺では、シダレザクラが三分咲き程度となり、訪れる人を喜ばせていた。

パン食べにきてね

お茶しに来ませんか――。舞鶴市丸田に知的障害者授産施設「みずなぎ丸田学園」が開所し、8日に完成式典があった。学園に通う障害者たちが焼くパンを味わえるカフェコーナーを設け、気軽に立ち寄れる雰囲気を目指した。園芸品など様々な品の販売も計画している。

焼きたてパンが楽しめるカフェスペース＝舞鶴市丸田で

舞鶴・みずなぎ丸田学園開所

味に自信あり　地域で一緒に

市内の社会福祉法人「みずなぎ学園」が、総事業費1億5394万円で建てた。このうち市や民間の財団から6割強の補助を受けている。約2550平方㍍の敷地にパン工房やカフェなどがあり、市内の10～50代の障害者17人が4日から通っている。

みずなぎ学園が運営する市内三つの通所授産施設には、府立与謝の海養護学校（岩滝町）を卒業した障害者ら109人が通う。定員いっぱいの状態で、新たな施設を求める保護者らの声があったという。施設がなかった由良川沿いの加佐地区に建てることにした。

みずなぎ学園では2年前からパン製造販売の実績があり、好評を得ている。丸田学園では、前日に仕込んだ生地を毎朝8時にかまどに入れ、昼前にはカフェに並べる。同市北田辺の「みずなぎショップ　ビバ！」でも売る。日替わりの品も含めて30種類以上あり、担当職員の植田珠美さんは「皆で楽しく焼いています。味には自信があるので一度ご賞味下さい」と呼びかけている。

丸田学園の植田泰正施設長は「地域の人との交流の場を作りたかった。喫茶を楽しみながら通所者の作品を手にとってもらえたら」と話す。

みたらし本舗　団子製造卸　茶月
催し物に器具一式無料貸出し
京・中京区円町東入つめ信号上ル
☎075(811)7469